

昭和62年  
2月10日  
第45号

発行 守 谷 町 議 会  
編集 守 谷 町 議 会 事 務 局  
TEL 02974⑤1111(内56)  
茨城県北相馬郡守谷町大字守谷  
甲631～1

# もりやまち 議会だより

- ①ページ 議決された内容  
②ページ 一般質問  
③ページ 決算の概要、請願・陳情  
④ページ



冬の日差しの中で元気に持久走大会(守谷小学校)

## 60年度決算を認定

### 第四回定例会開かれる

昭和六十一年第四回定例会が、去る十二月十日から十九日まで、十日間の会期で開かれました。  
初日の本会議で議案が上程され、二日目の質疑を経て各常任委員会に付託されました。十七日、十八日には、六名の議員により町政に関する一般質問が行われました。

今回の定例会には、昭和六十年度各会計の決算をはじめとする町長提出議案十三件と、議員提出議案(意見書)一件が上程され、いずれも原案どおり可決されました。

### 第4回定例会の

## 議決内容

#### ●昭和六十年度各会計決算の認定

関係記事は四ページに掲載してあります

#### ●専決処分の承認

##### ●一般会計補正予算

地域改善対策事業における住宅新築資金等貸付事業費、老朽住宅除却促進事業費の増額及び取手市外二町火葬場建設工事設計料負担金の予備費からの組み替え。  
補正予算額 三十二万二千元

#### ●補正予算

##### ●一般会計補正予算

老人保健特別会計繰出金、農業振興費における各種補助金、防火水槽新設工事費、消火栓ボックス修繕料、都市計画図作成委託料、守谷中改修工事設計委託料などの増額及び町長選挙費、町道改良工事費、取手西口北守谷線改良工事費の減額などが主なもの。  
補正予算額 一千二百三十六万三千円  
補正後の予算額 五十九億六千六百九十七万七千円

##### ●老人保健特別会計補正予算

医療費の伸びに伴う医療給付費二千四百三十二万二千元の増額と昭和六十年度

精算分の支払基金交付金、国・県負担金の確定に伴う一般会計への繰出金二千七百六十二万一千円の増額など。

補正予算額 五千二百八十八万  
補正後の予算額 六億六千二百三十二万三千円

#### ●町道廃止・認定

●町道路線の廃止及び認定  
昭和六十一年十二月九日付で調製された道路台帳が現状に即応しなくなったことと地方交付税算定の基礎とするため、新しく道路台帳の調製をしたことに伴い、これまでの町道の全路線を廃止するとともに、新道路台帳に基づき町道の全路線を認定した。

##### ●廃道路線

路線数 二、一七〇  
総延長 四八七、六二六・一〇メートル

総面積 二、一四三、七九二・五三平方メートル

##### ●認定路線

路線数 二、一七三  
総延長 四八六、五一五メートル

総面積 二、二六二、九四〇・五二平方メートル

#### ●工事請負契約

●六十一国補道改第一一〇号工事  
高野乙子地先町道一五二三号線の道路改良工事。工事区間延長四八メートル、幅員一八メートル  
契約金額 五千二百二十万円  
契約の相手方 太隆建設株式会社  
工期 昭和六十一年三月二十五日まで

●町営住宅建設工事第四工区  
工事内容は第三工区に同じ  
契約金額 八千三百四十万円  
契約の相手方 松丸工業株式会社  
工期 昭和六十一年七月十七日まで

#### ●第一回臨時会

##### 開かれる

昭和六十一年第一回臨時会が、去る一月十三日に開かれました。本臨時会に町長から提出された議案は、委託契約の締結について一件で、賛成多数で原案のとおり可決されました。  
議案の内容は、南守谷地区における三・三・一〇四南守谷近隣一公園整備事業を住宅・都市整備公団に委託するもので、この事業は、施設工事(公団立替)で実施し、事業費四千五百万円を予定しています。なお財源は全額公団が負担します。

## 森林・河川緊急整備税の創設に関する意見書

近年、河川地域の開発が進む反面、河川の整備は立ち遅れております。特に台風等の大雨時には当地域においても大きな被害が生じており、「豊かできれいな水が流れ、親しみのある美しい川」を再生することは、国民が最も強く望むところであります。

しかるに、ここ数年間にわたる抑制予算により、このような国民的要請に応えることができない現状にあることは、誠に遺憾とするところであります。

よって、治水事業に係る諸施策を充実し、新たな国民的需要に対応するため、農業用水及び上水道の小口使用者を除いた治水特定財源(森林・河川緊急整備税)の創設を図り、もって河川水量の維持、水質の保全、また河川の整備等、広範な河川事業を強力に推進することを強く要望する。

以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出いたします。

昭和61年12月12日

守谷町議会



## —町民と共に考える行政—

## 一 般 質 問

6名登壇 12月17日・18日

第四回定例会における一般質問は、去る十二月十七日、十八日の二日間にわたって行われました。

今回の通告者は、西巻議員、浅野議員、松本議員、岡田議員、中村議員、倉持議員の六名で、町長の施政方針に対する質問をはじめ、町行政の諸問題について熱のこもった質問が行われました。

## まちづくりに対する

## 基本的な考えは

西巻 健治 議員

西巻議員 これからのまちづくりは、単なる行政主導によるものではなく、人間生活に主点を置き、さらに各課の横のつながりを持つことにより、みんなでまちづくりを考えていくような施政が必要であると思うが、町長の考えを伺いたい。

町長 首都圏近郊都市としての需要に比べ得る基盤整備とともに、住民の交流や教育を大切にして、物と心の調和のとれた潤いのあるまちづくりを考えていきたい。

## 農業の振興

西巻議員 外国米の輸入自由化問題について、町長の考えを伺いたい。

町長 国際化の流れの中で、今後、食糧制度も徐々に直される傾向にあると思う。そこで農家自身も、将来の米の自由化等、食糧制度の見直しを想定し、それに適切に対応できるよう十分考えてほしい。

## 姉妹都市交流

西巻議員 国内あるいは外国の都市との交流を深めるべく姉妹都市の提携をする考えはあるか。

企画課長 国際的視野を広げるための外国との提携、特徴のある自治体をつつていくための県外との提携、さらに県内では北部山間部との提携などを検討している。

## 教育問題

西巻議員 青少年の健全育成のため、学校と家庭と地域の相互理解を深めるべく三者の意見交換の場を定期的に持つていただきたい。

教育長 現在、各中学校において、地域の教育懇談会という形で夏休みを利用して実施しているが、その他の時期の実施については検討してみたい。

西巻議員 高齢化社会が進む中で生涯教育は益々重要になってくると思うので、住民のコミュニケーションづくりの場として学校施設の開放を考えたらいきたい。

教育長 現在、各中学校の内運動場を開放しており、非常に利用度が高い。その他の施設については、要望があれば検討してみたい。

## 福祉問題

西巻議員 町長の施政方針にある「地域福祉の確立」とはどのようなことか。

福祉課長 高齢化社会が進むにつれて施設福祉が困難

になるため、自治体、地域住民、家族、本人の四者が一体となった在宅福祉を進めるということである。

西巻議員 ひとり暮らし、寝たきり老人等に対し、ミニデール事業を導入するとのことだが、その具体的な内容を伺いたい。

福祉課長 今年度から寝たきり老人に対する入浴サービス、食事の提供、峰林荘の方に実施をお願いしており、今後も継続していきたい。

西巻議員 寝たきり老人を抱えた家庭における介護者手当を町として考えられないか。

町長 できれば誘致したいが、用地の提供、予算の問題等を絡めて十分検討していきたい。

## 工業団地計画の

## 進捗状況は

浅野 進 議員

浅野議員 野木崎・大木地区の工業団地計画について、進捗状況と今後の見通しを伺いたい。

企画課長 この事業は、これまで公団が事業主体で行う予定であったが、国の行政改革の絡みで公団が事業を見合せてきたため、これに代わる新しい整備手法として、業務代行方式という民間活力を導入した土地区画整理組合による開発を検討している。現在、鹿島建設、清水建設、熊谷組、飛島建設の大手企業四社から開発手法が提出されている。今後のスケジュールとしては、昭和六十二年中に組合成立のための作業を行い、六十三年度には事業の認可をいただき着手したいと考えている。



整備が進められる都市計画道路北園野木崎線

## 水道企業会計の

## 健全化をはかれ

松本 明子 議員

松本議員 守谷町は県の企業局と、昭和五十七年度から六十二年度における町が買すべき水量について協定を結んでいるが（責任引取制）、実際には人口の張り付きが遅れたことなどにより、当初計画していた水の消費量を大幅に下回り、水道会計を圧迫する原因となった。しかし、この協定も六十二年度で切れるので、六十三年度以降については、実際の人口推移に合せて協定できるよう努力してもらいたい。また、町の水道への加入促進についても、積極的に進めていただきたい。

町長 県に対して、現在の人口計画に基づいて協定できよう交渉していきたい。また、加入促進については、すでに町内全地区に水道の本管が整備されており、未加入の家庭や企業に対して、衛生的な町の水を早く使ってもらいたくようPRしている。なお、今後も加入促進の運動を強めていきたい。

## 教育・福祉について

松本議員 町長の施政方針の教育文化を高めるための施策の中で、学校教育に関する次の点を伺いたい。

①「住民のニーズにこたえる幼児教育の充実を図る」とあるが、具体的にはどのような進め方なのか。

②「基礎的学力の向上にこたえ、心身の調和のとれた心豊かな人間教育に努力する」とあるが、具体的にどのような教育をするのか。

③「教育機器（パーソナルコンピュータ）の導入」とあるが、その導入時期を

町長 町民の皆さんに社会福祉協議会の会員になっていただくなど、町民一人ひとりに福祉について認識していただき、隅々まで手のとく福祉行政を考えていきたい。

松本議員 共働き家庭にお

ける小学校低学年のカギッ  
子対策として、児童保育を  
実施してもらいたい。  
福祉課長 児童保育を実施  
するには、そのための施設  
が必要であり、財源の問題  
等、いろいろな面で検討し  
ていかなければならない。  
松本議員 施設方針の中に  
「給与の適正化」とあるが、  
職員の労働意欲を失わせる  
ことなく、住民奉仕のため  
意欲をもって働けるような  
給与体系を考えてもらいた  
い。

町長 地方公務員の給与基  
準を尊重した適正な給与体  
系を望んでいる。

### 平和問題

松本議員 現在、茨城県下  
でもすでに三十の自治体が  
非核平和都市宣言をしてい  
るが、守谷町においても早  
くこの宣言をして、積極的  
な平和運動を進めてもらい  
たい。

町長 国の存立を危うくす  
るか安全にするか、極めて  
大きな問題であるので、真  
剣に考慮し、宣言するには  
十分な配慮をしなければな  
らない。

### 地域改善対策事業

松本議員 現在、地域改善  
対策事業として住宅新築資  
金等貸付事業を実施してお  
り、住宅の新築、改修及び  
宅地の取得について長期低  
利で資金の貸付を行っている  
が、その財源として、  
町の起債（借金）の利子と  
低利な貸付金の利子との差  
があるため、それが町の負  
担となっている。そこで、  
国に対して、町の負担分を  
補うよう要望してほしい。  
町長 県を通して要望した  
と思う。

### 財政問題

松本議員 昭和六十年度末

における守谷町の借金は、  
一般会計、上下水道会計を  
合すると、利息を含めて約百  
四十七億六千万円もあるわ  
けだが、今後の財政の見通  
しを伺いたい。

工業団地計画の推進、ある  
いは受益者負担金の適正化  
等により財源の確保を図っ  
ていくならば、長期的には  
返済できると思われ、それ  
ほどの心配はないと考えて  
いる。

### 情報公開の 制度化をはかれ

岡田 光雄 議員

岡田議員 情報公開は、民  
主政治の原則であり、町長  
の施政方針にある「住民参  
加や対話の政治」を進める  
うえでも大変重要になって  
くると思われるが、情報公  
開制度の条例化についての  
考えを伺いたい。

町長 情報を公開するには、  
個人のプライバシーなどの  
問題もあり、公開、非公開  
の書類を完全に整理しなけ  
ればならないので、新しい  
庁舎建設と併せて完全な管  
理のできる設備を整え、そ  
の時点で制度化していきた  
い。

岡田議員 情報公開を制度  
化するための準備機関とし  
て委員会を設置する考えは  
あるか。

町長 庁舎建設に絡み、こ  
れから検討していきたい。

### 役場庁舎問題

岡田議員 今の役場庁舎は  
駐車場が狭く、窓口事務も  
分散され、大変不便をきた  
している。一日も早く  
新庁舎を建設してほしいが、  
新庁舎の位置や規模等につ  
いてはどのように考えてい  
るか。

町長 位置については、将  
来を想定した地理的な功罪  
を見出して検討すべきであ  
ると考えている。また、庁  
舎の規模についても、将来  
に想定している人口十万人  
に見合う庁舎を考えていき

### 常磐新線と 町の対応について問う

中村 力 議員

中村議員 常磐新線の整備  
は第三セクター方式で進め  
られると思われ、守谷町も  
その一員として相当の財政  
負担をしなければならない  
と思う。今後、新線の建設  
促進を図ろうとするならば、  
その財政負担に対応できる  
守谷町の体質をつくること  
が重要であると思うが、町  
長の考えを伺いたい。

町長 関係自治体の負担や  
その額についてはまだ決定  
していないが、守谷町の財  
政能力に見合うだけの負担  
は考えている。

中村議員 常磐新線が守谷  
町のどこを通るのか具体的  
なルートは決まっていな  
い。そこで町では、あらかじ  
め三本のルートを想定して調  
査を進めているとのことだ  
が本当か。

町長 守谷町としての受け  
入れ態勢を整えるべく、関  
係機関と研究を重ね、大体  
三本のルートに絞って調査  
を進めている。

中村議員 役場新庁舎の建  
設にあたっては、今の庁舎  
周辺の活力を失わないよ  
う跡地の利用計画を並行  
して進めるべきだと思っ  
た。

### 役場庁舎問題

町長 新庁舎建設と同時に  
有効な跡地利用を考えてい  
きたい。

中村議員 新庁舎の設計を  
するにあたって、まず住民  
にデザイン等を公募し、そ  
れを専門の設計士が参考に  
するといった名実ともに住  
民の手づくりの庁舎とい  
うものを考えたらどうか。

町長 町民の中から良いア  
イデアを持った方に積極的  
に参加していただくことも  
考えていきたい。

### 水道会計

中村議員 町長は施政方針  
で、水道会計を圧迫してい  
る一つの原因となっており  
るの企業局との責任引取制  
の改善を図るとしているが、  
具体的な考えを伺いたい。

町長 県の企業局において、  
当初、水を供給するための  
設備投資が大きかったため、  
水を自治体として負担する  
分の負担が必要であった。  
今後は、企業局の大きな設  
備投資はないと思われ、さ  
らに当町においても受水量  
が伸びる傾向にあるので、  
これらを踏まえて、責任引  
取制の改善に努力してい  
きたい。

### 教育行政

中村議員 町長の施政方針  
に、「国際人を育成するた  
め、英語外人教師を招けい  
ます」とあるが、どのよう  
なルートで招けいするの  
か。

町長 これは国が進めて  
いる事業であり、守谷町と  
しては、昭和六十三年度の  
受け入れの希望を出してい  
る。ただ当町には中学校が  
三校しかなく、町単独では  
若干のむだを感じる。そ  
で、取手市・北相馬郡の教育  
委員会において、四市町共  
同による依頼も検討してい  
る。

### 商工行政

中村議員 近々、北団地に  
ショッピングセンターが完  
成することになったが、同  
時に既成商店街の活性化を  
図っていく必要がある。こ

の活性化するための手法を  
町長はどのように考えてい  
るか。

町長 消費者の魅力ある商  
店街づくりのため、商店街  
商工会の皆さんが自主的に  
活動され、また既成商店街  
には商店以外の家も多く並  
んでいるので、その方々に  
も協力いただきたい。町と  
しても、商店街、商工会、  
地権者の皆さんと連絡を密  
にして一緒に活動して活性化  
を図っていきたい。

### 福祉行政

中村議員 重度心身障害児  
のよりよい機能回復訓練の  
ため、施設の拡充を図る必  
要があると思うがどうか。

町長 新庁舎建設と絡めて  
設備の整った保健センター  
のようなものをつくりたい  
と考えている。

### 行政改革

中村議員 町が示した地方  
行政改革大綱案について、  
次の点を伺いたい。

①前納報償金の支給率の引  
き下げ及び限度額の設定に  
より経費の節減を図るとし  
ているが、現在の収納率低  
下の傾向を踏まえてどう考  
えるか。

②組織機構の簡素合理化の  
ため、審議会及び協議会等  
の組織や構成員を削減する  
とのことだが、本当に行っ  
たのか。

助役 ①納税奨励金につ  
いては、税金の引き制度に  
つながるという考えのもと  
に、県下全般を通じて廃止  
の方向で努力している。収  
納率は若干低下の傾向にあ  
るが、預金振替払い、窓口  
納入などで対応している。  
また来年度からは、水道、  
下水道料金の納付書の一本  
化を図り、さらに納税委託  
の問題、専門徴収員の設置  
などについても検討してい

### 新庁舎建設の 今後の計画は

倉持 和夫 議員

倉持議員 町長は施政方  
針の中で、役場新庁舎の建  
設に努力するとしているが、  
今後の計画はどのようにな  
っているのか。

町長 現在の庁舎は、人口  
の増加に伴い非常に手狭に  
なってきたので、この  
期に将来の計画人口に対応  
できる庁舎を建設したいと  
考えている。今後の計画と  
しては、昭和六十二年  
から本格的な調査研究を始  
め、できれば六十三年度に  
着工し、六十四年度までは  
完成させたいと考えてい  
る。

### 自然保護

倉持議員 守谷町は、南  
北両団地や民間開発等によ  
り自然環境が失われつつあ  
る。また、残されている自  
然についても、最近荒地が  
目立ってきているので、こ  
れらの保全とともに、今後  
の開発にあたっては、でき  
る限り自然を保護してい  
たい。

町長 開発にあたっては、  
倉持議員が落ち込む反  
面、人口の増加に伴う町民  
税や固定資産税等の伸び、  
さらに道路台帳を整備した  
ことによる地方交付税の伸  
びなどが期待できる。来年  
度の予算編成にあたっては、  
これらを十分考慮し、健全  
な財政運営を図ってい  
きたい。

### 財政問題

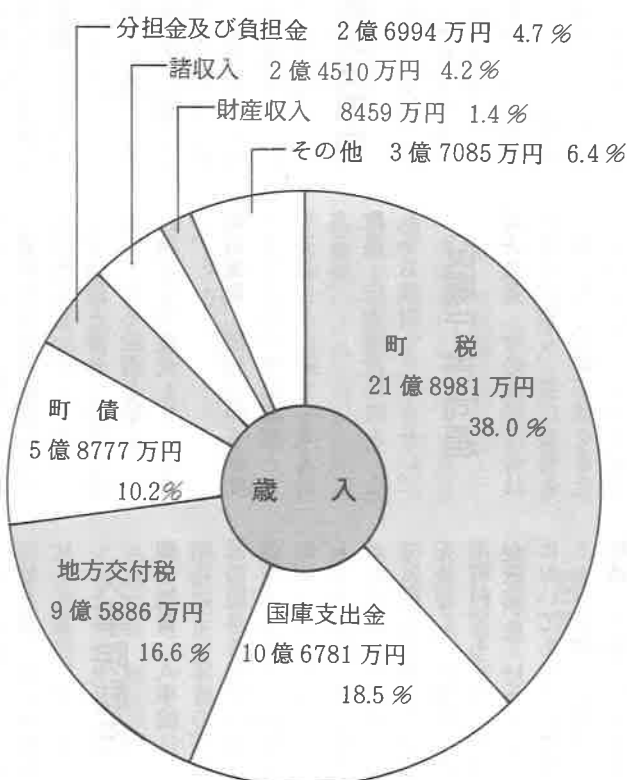
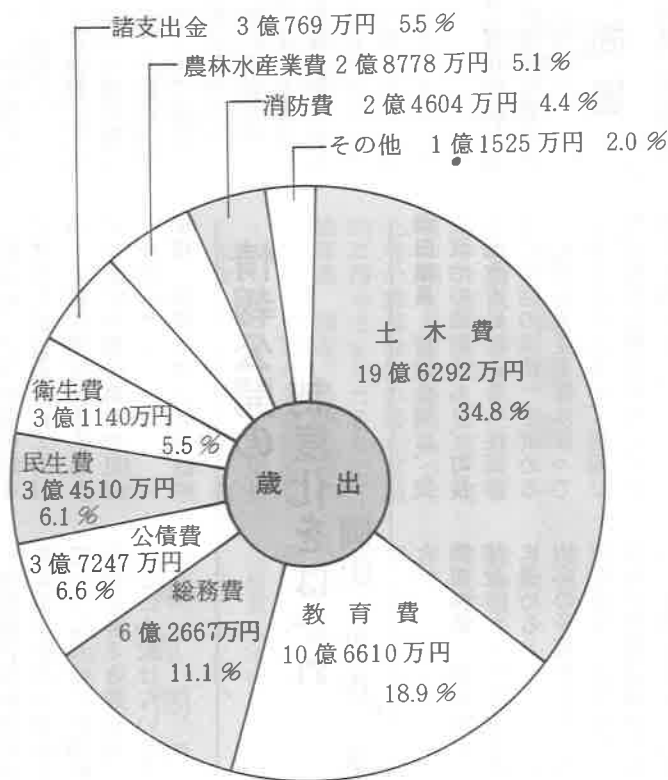
倉持議員 本年度は、円  
高の影響により法人税が  
なり落ち込んでいるよう  
だが、来年度予算における  
入の見通しを伺いたい。

町長 法人税が落ち込む反  
面、人口の増加に伴う町民  
税や固定資産税等の伸び、  
さらに道路台帳を整備した  
ことによる地方交付税の伸  
びなどが期待できる。来年  
度の予算編成にあたっては、  
これらを十分考慮し、健全  
な財政運営を図ってい  
きたい。



荒廃している守谷沼

一般会計決算の内訳



住みよい町づくりに向けて

60年度決算を認定

総額八十億円を超える昭和六十年の各会計の決算が認定されました。決算額は別表のとおりです。

決算の審議は、町の仕事計画どおり行われたか、また、町民生活の向上に役立ったかをチェックするとともに、その成果をふまえて、今後の町政の進め方を考えていくという大切な役割を持っています。

今回の決算の審議にあたって、守谷町議会では、一般会計決算を総務、教育厚生、産業経済、建設の四つの常任委員会に各部門別に付託し、また、国保特別会計決算と老人保健特別会計決算を教育厚生委員会に、下水道特別会計決算を建設委員会にそれぞれ付託しました。

委員会では、各委員が町執行者に対し、効果的な財政運営をめぐって具体的な質疑を行い、慎重な審議を経て本会議に報告され、各会計とも賛成多数で認定されました。

| 昭和60年度 各会計決算 |              |        |              |        |             |
|--------------|--------------|--------|--------------|--------|-------------|
| 各会計名         | 歳入決算額(円)     | 伸び率(%) | 歳出決算額(円)     | 伸び率(%) | 差額(円)       |
| 一般会計         | 57億7473万3517 | 20.5   | 56億4142万5117 | 21.2   | 1億3330万8400 |
| 下水道特別会計      | 13億1606万5331 | △26.6  | 12億8584万1434 | △27.2  | 3022万3897   |
| 国保特別会計       | 7億6356万4647  | 8.9    | 6億8871万2106  | 18.5   | 7485万2541   |
| 老人保健特別会計     | 5億6805万9229  | 19.5   | 5億5055万8220  | 20.1   | 1750万1009   |
| 合計           | 84億2242万2724 | 8.5    | 81億6653万6877 | 9.4    | 2億5588万5847 |

(注) △はマイナスを示す。

請願・陳情

皆さんから出された請願陳情の審議結果をお知らせします。

採択 五件

- ◇向原地内町道舗装に関する請願(守谷甲二四五―六 富山 昭氏ほか五名)
- ◇高野仲坪地内道路拡幅改良に関する請願(高野一三七三 飯泉富正氏ほか二名)
- ◇西板戸井地区生活道路改良促進に関する請願(板戸井一三八八 飯田 秀氏ほか二名)

不採択 二件

- ◇森林、河川緊急整備税構想の撤回を求める請願(日本共産党守谷支部長 金杉 昇氏)
- ◇言論、思想、結社の自由をふみにじる政党法に反対する意見書の採択を求める請願(大山新田六一三 中村健男氏ほか七五名)

歳時記

こたつ

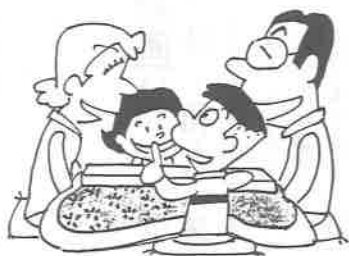
こたつは頭寒足熱式の理想的な暖房として昔から親しまれてきました。

「最近家族のコミュニケーションがなくなってきた。冬になるとこたつに全員集まるのが楽しい」と言っている人もいます。

ご存じのように、今は、昔のような木炭のこたつは影をひそめ、こたつといえは電気こたつです。それも家具調こたつなどといって下側の出っ張りがなく、こたつを使わない季節にはテーブルとして利用できるものに人気があります。

近ごろは外国人にもこたつの愛用者が多いようです。

米食、とくに寿司がアメリカで喜ばれ、また日本の布団を愛用する外国人が多いと聞くと、日本のヤングがそれらを見直す、逆輸入現象が目立ちますが、こたつもまたそうなるかもしれません。



そういえば、一般に掘りこたつといわれる腰掛式のこたつをよく見かけますが、あれを最初に作ったのは、イギリスの陶芸家バーナード・リーチ氏で、明治の末のことだといわれています。二月はこたつなどの暖房でエネルギーを多く消費する季節なので、資源エネルギー庁では、二月を「省エネルギー月間」と定めています。現在は原油価格の低下や円高の影響などで、エネルギー事情はひところほど悪くはありませんが、こういう時こそ油断せずにエネルギーを効率よく利用する習慣を身につけたいものです。